

(令和6年度補正分) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (都道府県分) 個票

自治体名 秋田県

本事業の担当部局名 あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課

事業メニュー	ライフデザイン・結婚支援重点推進事業							
区分	重点メニュー							
関連事業メニュー	1.2.5 地域の結婚支援ボランティア・事業者等を活用した伴走型結婚支援の充実							
個別事業名	結婚サポータースキルアップ事業					新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続	
実施期間	令和7年4月1日		～	令和8年3月31日		事業開始年度	令和3年度	
総事業費(A)(円)	1,075,300		寄付金その他の収入予定額(B)(円)	0		差引額(A-B)(円)	1,075,300	
対象経費支出予定額(円) ※補助率を乗じる前の額	1,075,300							
費用内訳(円)	区分	諸謝金	賃金	報償費	旅費	需用費	役務費	
	総事業費	0	0	0	9,400	0	52,800	
	対象経費支出予定額	0	0	0	9,400	0	52,800	
	対象外経費支出予定額	0	0	0	0	0	0	
	区分	委託料	使用料及び賃借料	備品購入費	負担金	補助金	計	
	総事業費	1,013,100	0	0	0	0	1,075,300	
	対象経費支出予定額	1,013,100	0	0	0	0	1,075,300	
	対象外経費支出予定額	0	0	0	0	0	0	
	○	※上記対象経費支出予定額に本交付金の対象外となる経費は含まれていない。						
	自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け	<p><自治体における少子化対策の全体像>※全事業共通 秋田県は、若年層の県外流出による社会減と、婚姻件数と出生数の減少による自然減により人口減少に歯止めがかからない状況である。 県人口の自然減抑制のため、若年層に向けたライフプランを学び考える機会の充実や地域全体で結婚・子育てをする機運の醸成のほか、あきた結婚支援センターを本県の結婚支援の中心に位置づけ、結婚・出産につながる独身者の出会いの機会の創出に向けた取組の充実を図る。</p> <p><本個別事業の位置付け> 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現に位置づけられており、その達成に向けた取組として、結婚サポーター等による出会い・結婚を支援する地域活動を促進していくこととしている。本個別事業は、その一環として結婚サポーターの資質の向上を目指し、ネットワークづくりを行うものである。</p>						
番号	項目	内容						
1	結婚サポーター研修会の開催(第1回・第2回)	<p>第1回、第2回共通 第1部【対象:新規サポーター】 モデルプログラムを基に秋田県がR4に作成したマニュアルを用いて基礎研修を行う。</p> <p>第1回第2部【対象:既に研修を受講済みのサポーター】 相談者に寄り添った(傾聴)支援等についての研修会を開催する。</p> <p>第2回第2部【対象:既に研修を受講済みのサポーター】 ・出会いのイベントでの実践サポートについて、実践内容を振り返り、実践の場に参加できなかったサポーターと気づきや課題点等を共有する。</p> <p>(育成計画の策定) ・結婚支援ボランティアの育成方針、研修内容、フォローアップ、KPI等を定めた「令和7年度結婚支援ボランティア等育成計画書」を策定し、育成計画に基づき、結婚支援ボランティアを育成する。</p>						

個別事業の内容	2	<p>出会いイベントでの実践(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の育成計画に基づき、実践の場として出会いイベントに参加し、講師指導の下、サポートを行う。 ・サポートの際の気づき、課題点の確認を、参加したサポーター同士で行う。 ・イベント参加者との相談会を実施し、伴走型支援につなげる。 ・相談会終了後も、引き続き相談者が伴走型結婚支援を受けられる体制を構築するため、相談会場にネットワーク推進員を派遣し、結婚サポーターとの情報共有を図り、あきた結婚支援センターを中心とした伴走型結婚支援につなげる。 <p>※「出会い・結婚応援事業」で実施するイベントにサポーターが参加する。</p> <p>【伴走型結婚支援体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきた結婚支援センターを介して、相談者と結婚サポーターとの面談等の調整を行う。 ・また、面談(オンライン面談含む)等については、あきた結婚支援センター及び市町村等のブースや機器を使用し、相談者と結婚サポーターが相談できる体制を整備する。
	3	<p>結婚サポーターの情報交換会の開催</p> <p>【対象:全てのサポーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、2回研修会後に、オンラインで主会場と県内市町村会場を接続する。これまでは協力要請であったが、市町村連携コースの要件としたことで、確実に市町村会場を設置し運営することが可能となる。 ・また、全体での情報交換会終了後に、より身近な地域の結婚サポーターとの更なる交流を図ることが可能となり、地域に応じたネットワーク体制の構築を目指す。 ・地域のサポーターの具体的な取組の成功例や、課題について意見交換し、サポート活動に活かすために情報共有を図る。 <p>(ネットワークの構築)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別活動のみにならないよう、地域に応じた自主的なネットワーク体制の構築を目指すとともに、県が主導して、市町村間の連携した取組方法についての検討を支援する。

<過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)>

課題1 相談者に寄り添った支援ができていない。

課題2 結婚サポーター同士の交流が少なく、活動の範囲を広げるためにも市町村域を超えた広域的な活動や取組も必要。

課題3 対面のセミナー、情報交換会を望む声も多いものの、県土が広いほか高齢の「サポーター」が多く、容易に参加することができない。

課題1への対応

- ・R6サポーターアンケートにおいても、今後行いたいサポーターとしての活動内容として、出会いイベントの開催・サポートを挙げるサポーターが多くおり、独身者との個別の接点が少なくなる中、サポーターとして出会いイベントへの関わり方について学びの機会を求める声があったことから、令和7年度においても、イベントにおける独身者のサポート方法等について学べる研修会を開催する。
- ・相談対応における傾聴スキルを高めたいとの意見があり、出会いや結婚を希望する方に寄り添った支援ができるよう、研修会を開催する。
- ・サポーターが、出会いイベントで独身者をサポートする実践経験を積み、また、イベント後の個別フォローへつなげるために、イベントの開催、サポートについてサポーターのスキルアップを図る。実践(イベントサポート)→研修会(振り返り)を開催。
- ・実践研修においては、イベントプログラムに参加者との相談会の時間を設けることで、相談者に寄り添った支援のきっかけを創出する。
- ・伴走型結婚支援となる結婚サポーターへの相談については、あきた結婚支援センターを介して、随時申込みが可能な体制となっている。
- ・令和7年度結婚支援ボランティア等育成計画書を策定し、こども家庭庁策定のモデルプログラムの内容に準拠した研修を実施することで、結婚サポーターを育成する。また、事業実施期間中は、こども家庭庁が実施する、本事業のフォローアップへ協力する。

課題2、3への対応

- ・情報交換会(対面及びオンライン)でサポーターの活動の事例発表、意見交換を行う。
- ・これまで市町村会場の設営については、令和7年度も引き続き市町村連携コースの要件として、市町村会場の設営及び運営を盛り込むことで、より多くの結婚サポーターの参加が可能となる。

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
		合計特殊出生率			1.44 (R7年)
参考指標 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績値(時点)	
		合計特殊出生率		1.10 (R5年)	
		婚姻件数	件	2,302 (R5年)	
		婚姻率		2.5 (R5年)	

	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
	番号	項目			
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標	(アウトプット)				
	①	「サポーター」の新規登録数	人	30	15 (R6. 12月末)
	②	研修受講者数	人	150	42 (R6)
	③	ボランティア育成のための研修回数	回	2	2 (R6)
	④				
	⑤				
	(アウトカム)				
	①	交付金事業に対する事業対象者(住民等)の満足度(該当事業に限る。)	%	60	63 (R6)
	②	希望どおりの結婚に向けて後押ししてくれたと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%	—	—
	③	結婚、妊娠・出産、子育てに前向きになったと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%	—	—
	④	モデルプログラムによる取組がボランティア等の募集・育成・活動等に役立つと答えた職員の割合	%	75	100 (R6)
	⑤	結婚支援に対する理解、関心が深まったと回答したサポーターの割合	%	75	72 (R6)
	⑥	実践の場で活動し、スキルアップしたサポーターの人数	人	10	13 (R6. 12月末)
	⑦	「サポーター」の支援を受けた利用者数	人	120	176 (R6. 12月末)
	⑧	「サポーター」の支援を受けた者の満足度	%	75	62 (R6. 12月末)